

北海道浮魚ニュース

平成 26(2014)年度 13 号

2014 年 8 月 27 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎道東太平洋スルメイカ資源調査結果

- ・分布密度は前年よりやや高く、道東太平洋に広く分布。
- ・魚体は前年並。

- ・調査期間 : 2014 年 8 月 21~26 日
- ・調査海域 : 道東太平洋沿岸
- ・調査船 : 北辰丸 (釧路水産試験場)
- ・調査方法 : イカ釣機 4~5 台を用いた約 3 時間半の夜間操業

1. スルメイカの分布密度

スルメイカは道東太平洋の 10 調査点すべてで漁獲され、十勝沖から根室沖までの広い海域に分布していました(図 1)。各調査点のスルメイカの分布密度(イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数)は 1.5~47.4 で、東側および西側の両端の点で高い値を示し、花咲沖が 47.4 と最も高くなっていました。全調査点の平均分布密度は 20.9 で、前年(18.4)をやや上回り、2000 年以降最も高い値となりました(図 2, 表 1)。

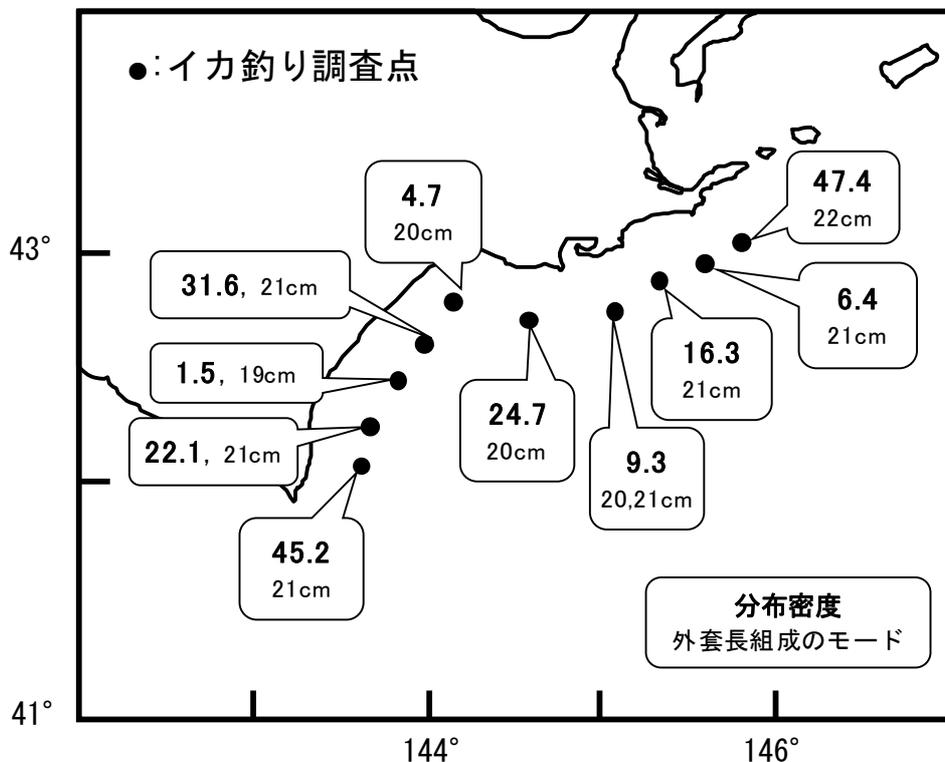


図 1 2014 年 8 月の道東太平洋におけるスルメイカの分布密度と外套長組成のモード
※分布密度は CPUE (イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) で示した。

※モードとは最も多く漁獲されたイカの大きさ。

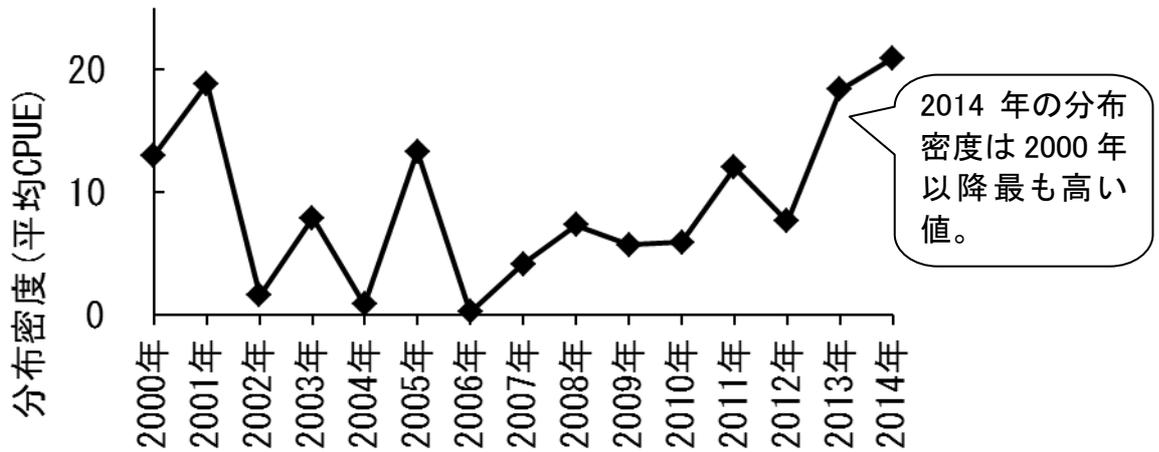


図2 8月の道東太平洋におけるスルメイカの平均分布密度

2. スルメイカの大きさ

全調査点での外套長(胴長)の組成のモードは21cmで、前年(21cm)と同じでした(図3, 表1)。各調査点の外套長組成のモードは、19~21cmに見られました(図1)。

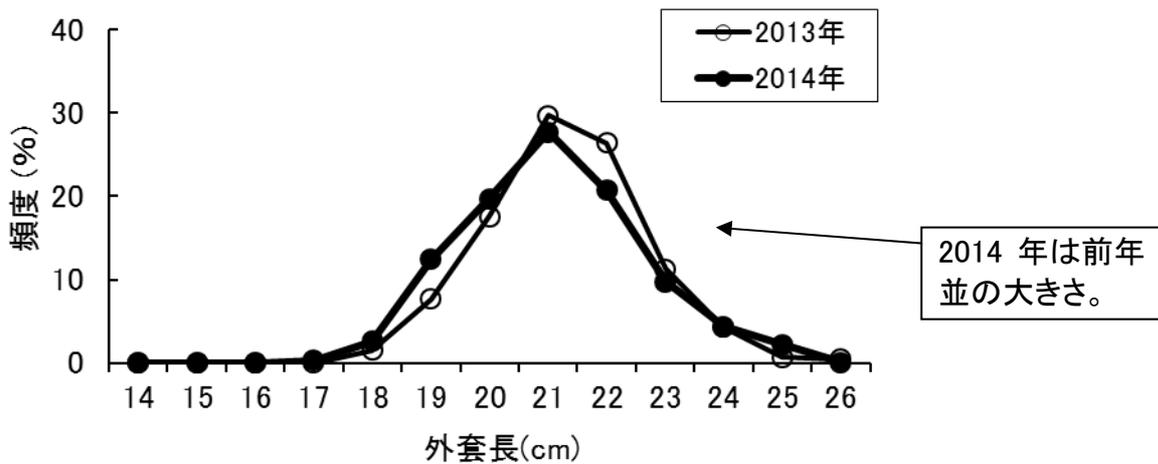


図3 8月に道東太平洋で漁獲されたスルメイカの外套長組成

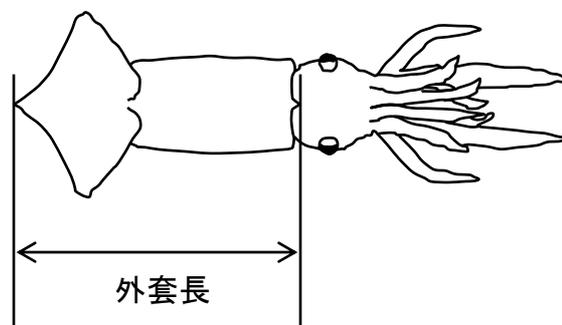


表1 2009～2014年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長		調査点数
			範囲(cm)	モード(cm)	
2009年 8/18～23	418	5.70	15-24	20	10
2010年 8/17～26	1,212	5.93	16-23	19	10
2011年 8/16～25	2,190	12.00	14-26	21	10
2012年 8/20～28	996	7.64	16-25	20	10
2013年 8/20～28	2,672	18.39	18-28	21	10
2014年 8/21～26	2,607	20.92	17-26	21	10

注)オホーツク海・根室海峡のデータは除いて、道東太平洋のデータのみ示した。

3. 表面および50m深水温

道東太平洋10調査点の表面水温は15.1～18.5で、平均17.3℃と、前年(15.8～20.4℃, 平均17.9℃)より低い点があったものの、ほぼ同程度でした。50m深の水温は6.0～12.4℃で、平均8.4℃と、前年(4.5～9.7℃, 平均6.5℃)より高くなっていました。

4. 標識放流調査

道東太平洋の3調査点で標識放流調査を実施しました(表2)。タグの付いたイカを見つけた方は、釧路水産試験場または最寄りの水産試験場までお知らせくださいますようお願いいたします。

表2 スルメイカ標識放流状況

放流月日	放流位置	標識タグ	尾数
2014年8月21日	42° 36' N	黄色・JPN R00～R02	243尾
	143° 58' E (大津沖)		
2014年8月22日	42° 04' N	黄色・JPN R03～R06	337尾
	143° 36' E (広尾沖)		
2014年8月23日	43° 02' N	黄色・JPN R07～R11	428尾
	145° 48' E (花咲沖)		

○本調査結果と他の研究機関の調査結果をもとにして、第2次太平洋スルメイカ漁況予報が9月下旬に発表されます。

(釧路水産試験場調査研究部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)